

令和3年度 病害虫発生予察 注意報 第3号

令和4年3月24日
大分県農林水産研究指導センター
農業研究部

- 1 対象病害虫 アザミウマ類
- 2 対象作物 イチゴ
- 3 対象地域 県内全域
- 4 発生面積 多い
- 5 発生量 多い

6 発表の根拠

- (1) 3月中旬の巡回調査では、発生圃場率、寄生株率ともに平年より高く、前年度よりも早い時期に急激な密度の高まりが認められた。また、10月以降平年よりも高い密度が継続して確認されている。

発生圃場率：60.0%（平年：19.9%、前年：20.0%）
平均寄生株率：12.6%（平年：2.0%、前年：1.2%）

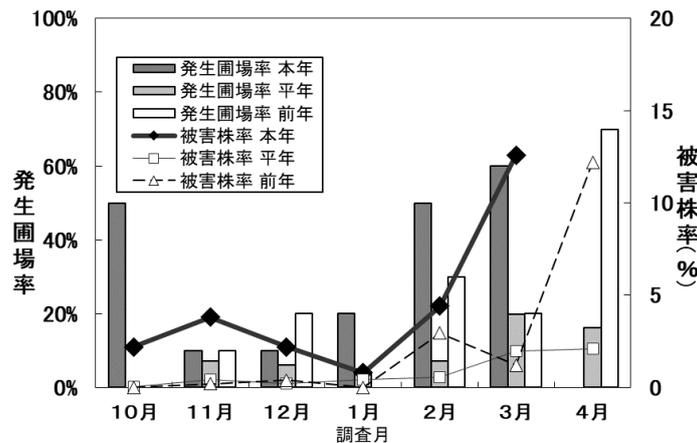


図1 病害虫発生予察巡回調査におけるアザミウマ類の発生推移

- (2) 九州北部は2月以降少雨傾向が続き、アザミウマ類の増殖に好適な条件で推移していた。福岡管区气象台が3月17日に発表した1か月予報では、向こう1か月の天候は晴れの日が多く、気温は平年並～高い、降水量は平年並と予想されており、引き続き好適条件が続くと考えられる。

7 防除対策

- (1) 本虫は高温乾燥条件下で多発しやすく、今後気温の上昇に伴ってハウス外からの飛び込みが増加すると考えられる。寄生密度が上昇してからでは防除が困難となるため、ルーペ等を用いてイチゴの花および果実をよく観察し、早期発見に努めて速やかに防除を実施する。

- (2) 圃場内および周辺の雑草はアザミウマ類の増殖源となるため、除草を徹底する。ただし、防除前に除草を行うと、ハウス外からの飛び込みにより被害が拡大する恐れがあるため、ハウス内のイチゴに対して防除を実施した後に除草を行うよう留意する。また、アザミウマ類は風で移動するため、特にハウスの風上側の除草を心がける。収穫残渣についてもアザミウマ類の増殖源となるため、埋設するなど適切に処分する。
- (3) 既に多発生が認められている圃場に天敵を導入する、もしくは天敵を再度導入する場合は、薬剤によってアザミウマ類の密度を十分に下げてから導入を行う。
- (4) 天敵導入後ただちに薬剤散布を行うと殺菌剤であっても天敵への悪影響が懸念されるため期間を空ける。また防除薬剤には展着剤も含めて天敵への影響が少ないものを選定する。
- (5) 天敵に対する薬剤の影響は、日本生物防除協議会ホームページ内にある「天敵等に対する農薬の影響目安」を参照する。

ホームページアドレス

<http://www.biocontrol.jp/Tenteki.html>



- (6) 受粉用ミツバチ（マルハナバチ等）に影響を及ぼす薬剤があるため、薬剤の選定には注意する。
- (7) アザミウマ類はトマト、ピーマン、ネギ等、イチゴ以外にも多くの園芸作物に被害を及ぼす害虫であることから、作物体を注意深く観察し早期発見・早期防除を心掛ける。
- (8) アザミウマ類の薬剤抵抗性発達を防ぐため、同一系統薬剤の連続使用は避け、ローテーション防除を心掛ける。防除に使用する薬剤は、大分県農林水産研究指導センター病害虫対策チームホームページ内にある「大分県主要農作物病害虫及び雑草防除指導指針」（<http://www.jppn.ne.jp/oita/>）の「いちご」「野菜類」の項を参照する。なお、薬剤によっては指針の更新日以降に登録内容が変更されている場合があるため、容器のラベルに記載されている使用時期、使用回数等を遵守し使用する。

病害虫対策チームホームページ

<http://www.jppn.ne.jp/oita/>

